

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和7年度第2回加東市商工業振興協議会
開催日時	令和7年9月2日（火） 10時00分から11時40分まで
開催場所	加東市役所 3階 302会議室
議長の氏名 長沼 恒雄 出席及び欠席委員の氏名 （出席委員 8人）長沼 恒雄、吉田 伊佐見、柳 隆之、小林 宮子、長谷川 妙子 川元 浩司、漆戸 宏明、長田 徹 （欠席委員 2人）増田 一貴、本岡 賢二	
説明のため出席した者の職氏名 —	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 産業振興部商工観光課 課長 岩崎 吉泰、副課長 竹内 誠彦、主査 森本 正明、主査 松岡 輝、 主事 和久 実音里	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 別紙「令和7年度第2回加東市商工業振興協議会の経過」のとおり	

(別紙) 令和7年度第2回加東市商工業振興協議会の経過

1 開会

2 挨拶

3 議題

(1) 協議事項

ア 商工業の活性化のための施策について

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	<資料に基づき、商工業の活性化のための施策について説明を行う。>
議長	前回からの流れで加東市について知っていただく機会を創出するという事で、グルメパスポートについて提案いただいています。ご忌憚のない意見をお願いします。
委員	グルメパスポートを実施した10年前は商工会も協力していますが、今はInstagram等を活用していかないと広がりません。事業の対象が書いてあるところにSNS等の制作費用について書いていただきたいです。 また、滝野にぎわいプラザ、道の駅とうじょう、h a l K等は必ず記載して欲しいです。 さらに、対象者には兵庫教育大学の学生を明記していただきたいです。学生が加東市内をあまり知らないという話をよく聞きます。4年間滞在し全国に散らばる学生たちこそが今後の宣伝マンとなるため、加東市の魅力を見つけるとともに、私たちと違う目で加東市を見て欲しいです。大学生とのコラボがSTEAM教育とも絡んで面白くなってくると思いました。 万博でもアナログのスタンプが流行っています。紙媒体の冊子であってもQRコードですべての店舗を見れるようにしておくことで、あまり費用をかけなくても内容が充実してくると思います。 一番大切なのは、前回から10年経過して、新しい住民も増えており、店舗を知らない方が増えています。飲食店中心は仕方ないですが、店舗や観光地、観光として来られる方やゴルフで来られる方、仕事で来られる方に飲食店やお土産屋等の市の情報が満載のものになればいいと思います。
委員	主に学生はなにを使って加東市にきていますか。車を使っていれば一番いいのですが、そうでない人たちはどのようにしているのでしょうか。大阪や姫路でイベントをすると電話でどうやって行くかと聞かれることが多いです。 どのようにみなさんにアピールしていきますか。
事務局	兵庫教育大学の学生の通学手段として、自家用車での通学が増えています。ただ、車をもってらっしゃらない場合でも友達が車を持っているため、例えば「複数人で利用すると特典が良くなる」等の工夫をしていきたいと考えています。複数人で行くと滞在時間の増加やSNS投稿にもつながっていくと考えています。その他の方で車を持たれていない方の対応は市全体の課題として捉えています。例えばバス停周辺の店舗等をピックアップする等の工夫はあるかと思いました。

委員	今の施策ではシェアサイクルがあるため、そういった手法についても選択肢としてあればいいかと思います。東条については設置箇所が少ないため、フォローが必要かもしれません。
議長	***さんは観光に関するアクセスについてどう考えますか。
事務局	自転車しか解決策がないと思います。 冊子やプランが完成した場合は、「その日で回って景品ももらおう」といったバスツアーも考えられます。例えば加古川線で加東市に来ていただいて、滝野駅から現地集合、現地解散のバスツアーも一つの案かと思います。シェアサイクルはいろいろなところに置いて増やそうとしていますが、それくらいしか方法がないと思います。
議長	観光協会がしている神戸からバスツアーを企画するのは結構人が来ているようです。
事務局	夏のおどりの時にバスツアーを実施しました。地区から踊りに参加する人が少ないですが神戸で盆踊りをするとう万人くらい入るため、神戸にファンがいるかと考え実施しました。その結果バス2台分の申込みがあり、一日で断らないといけなくなってしまうました。 しかし、万博の期間であり、バス代とバスの確保の課題があるため、少し控えた程度となっています。そのため、バスは一つの案ではありますが、冊子とのかみ合い方は分らないです。
委員	グルメパスポートは10年前も好評だったと思います。今年商工会で飲食店電話帳を作成しました。市内の施設や掲載店舗に置いていますが、好評でなくなったから欲しいと言われていいます。***に置いたものも結構なペースでなくなっているため、観光で来られた方は地元のどこで食事ができるかが気になるころではあるので、そういう面でもいいかと思う。
委員	ある団体がイベントで配るため、商工会の飲食店電話帳を欲しいと言われました。こういう冊子があると、知らなかったお店や夜に開いているお店等の情報を探すことができます。置いている冊子は知らないうちに無くなっています。 また、SNSについては効果を実感しています。近所にある***は昭和の雰囲気のお店で開店前から人が並んでいるようです。遠方から来られるようで、わざわざ月に1回食べにくる人もいます。お店としてSNSはされていませんが、SNS等で情報を得た人が来ています。***でもSNSを見てきたという声が多いです。SNSでの口コミが目につきやすいのかと思います。
委員	食べるころについてまとめた冊子があることで、実際に私も何件か回ったのでそういう意味で経済効果は高いと思います。仕事等で市外から来られている方は、どこになにがあるのかが分らないため、そういう人からすると分かりやすくいいと思います。
委員	グルメパスポートは加東市を知ってもらいたいという目的で作られるということですが、どこに置かれるのですか。
事務局	前回のグルメパスポート同様に、コンビニ・市役所・飲食店等で販売しようと考えております。

委員	加東市以外の方に知ってもらうためには、販売が市内ではなくそれ以外の場所でないと意味がないと思いました。
委員	販売という話が出てきましたが、しっかりとお金のやり取りをしていただいて管理をしていただかないといけないと思います。 市内に置いて加東市を知っている人であればそれでいいですが、例えば三宮に置くとかいろいろな部分に置いてという話で広がっていかないといけないです。そうすれば販売というのはどうなのかという話が出てくるため、本当に販売するのか考えていかないといけないと思います。
事務局	加東市外から加東市に来ていただくため、本当に販売をするか、販売をする場合はどこで販売するかを検討いたします。
事務局	補足ですが、前は1,000円くらいの冊子として販売しており、割引率の高いクーポンが付いていたこともあり人気でした。市内の方は市役所に買いに来られましたが、ほかの販路としては***で販売しました。***同士のネットワークがあり一定の範囲内で販売しました。売らないという話であれば、制作費用は高くなります。 今は紙媒体では無いのですが、***という雑誌があり、姫路や北播磨の温泉等のチケットがついてくるものがありました。
議長	割引分の負担は店が行うのでしょうか。
事務局	店の負担はありましたが、割引率の大きいところはどうだったのか調べてみないと分かりません。ただ、店がこの割引はできますよという話ではあります。
議長	物価が高騰しているため、今大丈夫でも来年になると値上げするリスクがあるのではないかと思います。 ターゲットをどうするかになるが、近隣市から広げて神戸くらいまでにするのでしょうか。***のオーナーと話することがありますが、神戸の辺りからも人が来られるようです。わざわざ行こうと思わないと行かないような場所にいます。***もほかの地域から来られており、結構車が止まっています。通過点であり目的地でもあり両方かねていると思います。どういう層をターゲット層にしていくかの検討が必要だと思います。 みなさんSNSを活用されているので、最近立ち上げられた新しい店には広がりがあるようです。営業の形態が10年前と変わってきていることを実感しています。
委員	以前の形のままという物価の高騰による危険性もあると思います。 その時しか使えないパスポートではなく、QRコードでSNSやHP等のPRにつなげていくことが大事かと思います。
事務局	ターゲットの範囲については、当初北播磨がメインで、加古川・姫路くらいからも来られることを想定しておりました。どの範囲まで広げるかもあわせて検討いたします。
議長	中小企業診断士等の専門家にアドバイスを求めてもいいかもしれませんが。次回までにご検討いただければと思います。 それでは次の議題に移ります。

(2) 意見交換

ア 兵庫教育大学との連携事業（STEAM教育）について

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	＜資料に基づき、兵庫教育大学との連携事業（STEAM教育）について説明を行う。＞
議長	取り組むテーマについては、指導される先生の意見・考え方もあると思いますので、こんなのどうですかという投げかけをしていくような前提となります。 学生の人数は確定しましたか。
事務局	26人で確定しています。
議長	昨年度はバスで市内フィールドワークに行きましたよね。学生の人数何人くらいでしたか。
事務局	昨年度の学生は17名で、フィールドワークでは***を回りました。
委員	いろいろなテーマ・課題がありますが、課題の部分でもう少しヒントをあげた方がいいのかと思います。公共交通であればこういう計画があるとかシェアサイクルであればどこに何台あるとか、そういう風なヒントをあげておかないと、どこから取り掛かった方がいいのか全く分からないと思います。本当は加東市の状況をそれぞれのチームで把握してもらった方がいいですが、なかなか難しいと思うので、課題に対してヒントをあげる方がいいのかと思います。 例として、商店街の活性化として何回か課題にあがっており、学生にも言ったのですが、商店街の人たちはもう一度商店街を活性化させたいと思っているのか。という話をしました。周りで話をしていても、活性化を諦めているのか、活性化させたいが術が分からないのかという点では大きく違うと思います。現場の人の声を聞くのが非常に大切であることは話すのですが、時間的な問題もありなかなかそこまで出来ないため、ある程度課題の中にヒントをあげておくほうが現実味を帯びた解決策が出てくると思います。
議長	手探りでテーマを絞ってきましたが、12コマ程度しかない上に先生の意向もあるため、その辺りは調整が必要かと思います。学生としては授業の一環という部分が強いので、実際のアウトプットを期待するのは難しいかと思います。ただ、加東市に対する理解は深まっているため、学生に対するPR効果はあると思います。
委員	二年前の授業でホームページの改善が必要という意見を受けて、今年度は予算を立ててホームページの改修とSNSとのリンクをしようとしています。時間的に間に合わないかとは思いますが、学生の意見を入れていただけるのであればいいかもしれません。 商店街としては起業家・創業家が空き店舗を活用してくれる人や、やる気がある人が出店するためにはどうすればいいのか等の意見が出るのであれば、商店街の活性化につながると思います。 また、STEAM教育の1年目は観光地を周り、加東市の魅力を活かすためにどうすればいいと考えた授業には夢があったと思います。観光地に関する課題があってもいいかもしれません。

議長	S T E A M教育というのが学術的なものを含めないといけないこともあって、その辺りが難しいと思います。 先生からは数学の要素を持たせることが難しいと聞いています。 実社会の課題を解決するというのは、小学校、中学校や高校でも同じような授業を行っています。
事務局	こういう教育が今多いようで、社高校でこれに近いことをやっています。社高校で実社会の課題解決をした際は兵庫教育大学のS T E A M教育に携わっておられる先生が審査員として入っておられました。各企業が協力されており、レベルが高かったです。それは課題の具体性があるものが多かったため、課題を絞っていくとレベルが上がっていくと考えています。

4 閉会